

ハマの金港 横浜港

碧の足跡

令和四年9月29日発行
 横浜市中立老松中学校
 「碧の足跡」第一号
 老松中学校生徒会本部

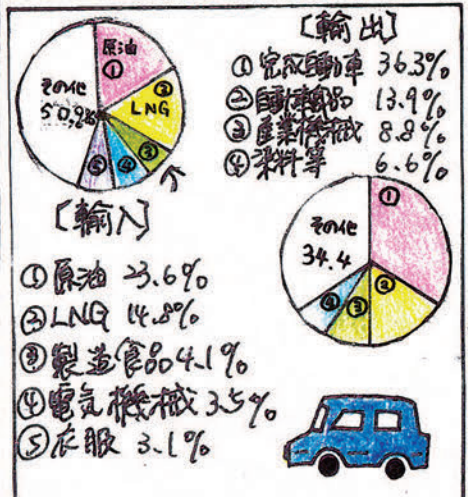


私たちが住む港

私たちの住んでいる横浜市のシンボルと言えど「横浜港」です。汽笛の音が聞こえる場所には位置する老松中学校。秋葉にも「窓より見えて船は行く」や港に寄る「潮風」と港が築き身近な存在です。しかし身近でありながら、なかなか学習する機会がありませんでした。7月21日に中学生記者講習会という企画に参加し、横浜港について取材してきました。なので、みなさんに横浜港についてお知りやしたいと思います。

生活と貿易

日本は四方を海に囲まれた島国であり、海外との貿易・交流の手段は、陸ではなく、海か空を使用するしかありません。現在の私たちの生活に必要なものは海外からの輸入品に支えられています。食料品においては、約6割が海外



に依存しています。一見、国産品と思われながらも、その原料は輸入品であることが見受けられます。例えば、麵などの材料となる小麦、しょうゆやみそや納豆の原料となる大豆は、約9割は海外からの輸入に依存しています。

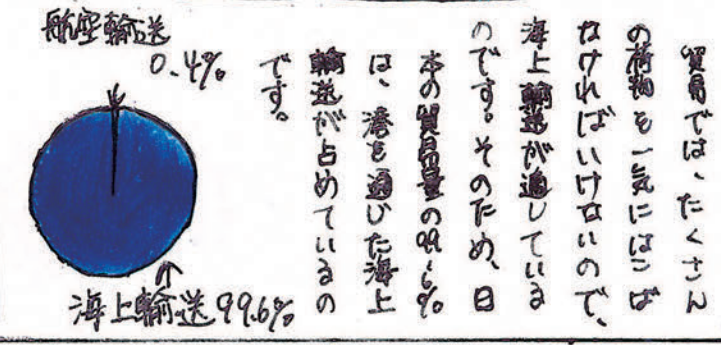
コンテナ輸送の特徴

コンテナを用いた物流の仕組みは「20世紀最大の発明のひとつ」といわれています。コンテナを使用することで、安全かつ安定的で、低価格、高効率な輸送が実現できるようになりました。コンテナ船は荷役作業に手間

品物一つ分の料金が安い
 重いものを大量に運べる

船と航空機の比較

品物一つ分の料金が安い
 速く運ぶことができる



活躍する横浜港

横浜港は、日本の中で大きく発達している港であり、東日本を代表するコンテナポートです。横浜港南本牧ふ頭では、日本で初めて大きな貨物船を受け入れることができるコンテナの専用埠頭が作られました。さらには横浜港では、コンテナターミナルの再編計画が進んでいます。コンテナ船、

- 横浜港ランキング!**
- ①コンテナ貨物取扱回数 全国 2位
 - ②貿易額 全国 3位
 - ③貨物取扱量 全国 3位

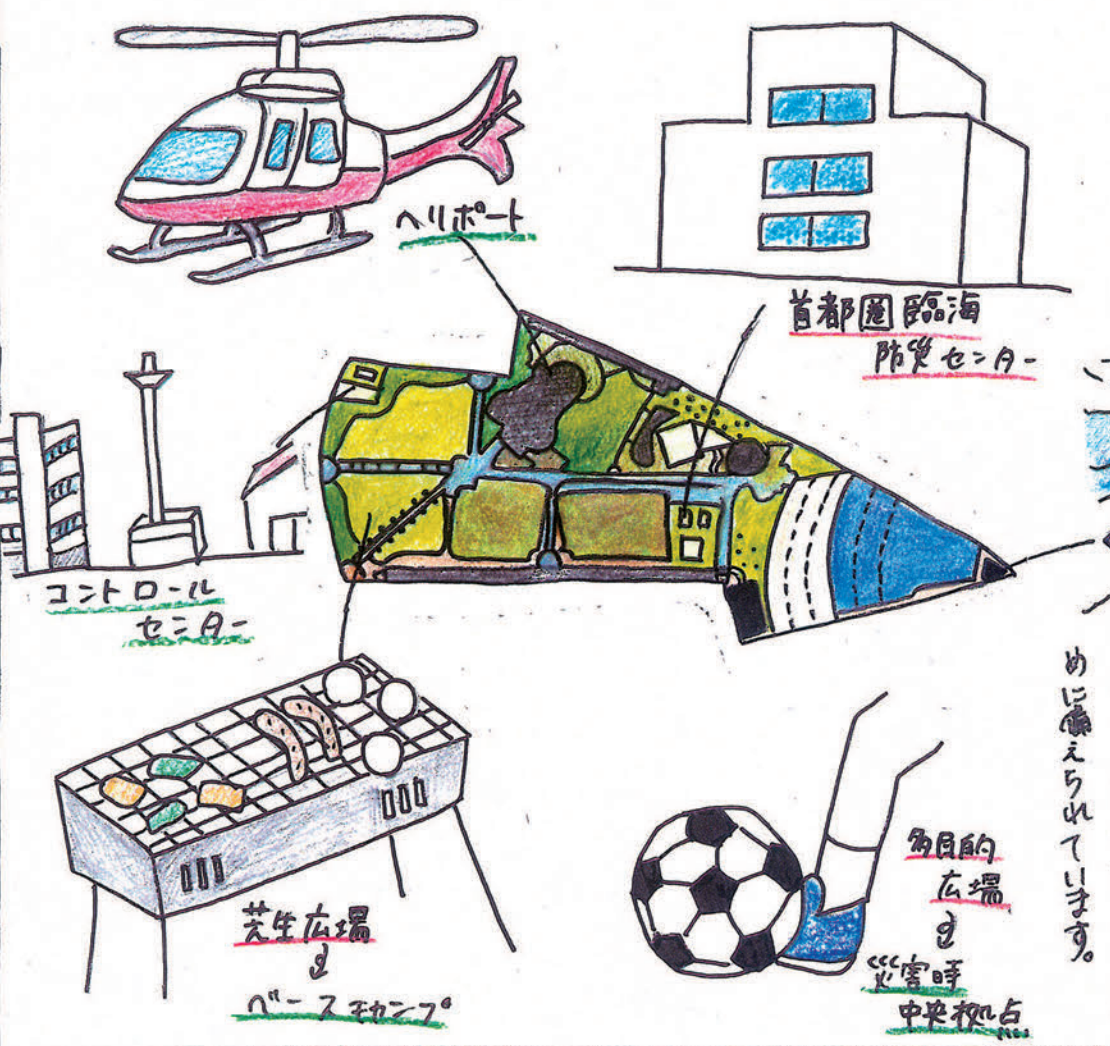
命と心の寄りどころ 東扇島



貿易の拠点としての横浜港の役割について紹介しましたが、もう一つ「防災」の機能を果たした港を紹介いたします。東扇島地区に整備されている「東京湾臨海防災センター」は、1999年の阪神淡路大震災では甚大な被害となり、情報がいまひとつ伝達できずに行政が混乱しました。その教訓を踏まえ、首都圏において大規模な災害発生に際して、防災センターの役割を担い、災害発生時の物資の受け入れを担っています。

防災の港

人々の生活と東扇島地区



実際に災害が起こった場合、国内や海外からの物資が船で届くには、数日かかります。物流に関するコントロールを行う極めて重要な場所となります。普段は徳やかなんかの悪いの場所とわかっていいますが、いざというときのために備えられています。

・東扇島は、地震が頻りに起こる。災害発生時に備えて、半時間以内。
・停電時に無線通信で、周囲との通信を確保できる自衛消防機関がある。

断水時に万人が1週間活動できる飲料水の3週間量がある。
・非常食、飲料水などは28食、備蓄。
・寝袋やテントも備わっている。

防災を見直そう

みなさんに改めて防災や避難生活も考えてみる。いざ、災害に備わってほしい。いざ、災害に備わってほしい。

編集後記

この集巻を通して、海や港が生活に欠かせない存在であることを知りました。しかし、日本大震災では津波が襲来し、多くの人の命が奪われました。過去の教訓を活かし、災害に備えることは私たちに命を守ることに繋がります。横浜のシンボルである港や海と共存し、これからは生活していきたいと思えます。